

風巻計

若宮 啓文
(論説主幹)

opinion news project



ブッシュ氏(右)とケリー氏(A.P.)

先ごろ面白い話を聞いた。85年11月、世界の視線を集める中、レーガン米大統領とソ連のゴルバチョフ書記長がジュネーブで初めて会ったときのことだ。レーガン氏は「これから長いつきあひになるから、アメリカをよく知っておいてもらいたい」と切り返して、「こう続けた」。

「アメリカでは、ホワイトハウスの前でいくら私の悪口を言い、『レーガン辞める』と氣勢を上げて、彼を捕まるともなく安全に家に帰れる。そういう国なんだ」

するとゴルバチョフ氏が「それなら我が国も同じですよ」と言い返した。「赤の広場で、いくらレーガン辞め

「with you」と言わせて

アメリカ

ブッシュ氏による捕虜虐待事件は、世界を驚かせた。イラク解放を唱える

今春、アフグレイブ刑務所で明らかになった米兵による捕虜虐待事件は、世界を驚かせた。イラク解放を唱える

「アメリカでは、ホワイトハウスの前でいくら私の悪口を言い、『レーガン辞める』と氣勢を上げて、彼を捕まるともなく安全に家に帰れる。そういう国なんだ」

するとゴルバチョフ氏が「それなら我が国も同じですよ」と言い返した。「赤の広場で、いくらレーガン辞め



「We are with you」と声をそろえて言えぬだろうか。

小泉首相の「もちろん」という人もいられる。だが、多くの同盟国の反対を押し切ってイラク戦争を始め、いまだ迷路的出口を見つげられないブッシュのアメリカは、多くの人の心から離れてしまった。

アメリカとは一緒にいたい。それなのにアメリカが一人でどんどん走って行ってしまった。これでは「with you」と、言おうにも言えないではないか。そんな切なさを感じている人も多からう。

「America, we are with you (アメリカよ、私たちは共にいる)」というタイトルで、「民主主義、自由、人間の尊厳……」といった価値をたたえて連帯を示した文面だ。参加者全員の名前も小さな文字で並んでいた。写真右。

当時、仕事を離れてアメリカの研究所に滞在していた私も、これに加わった一人だ。自由社会の見聞がこんな風に屈辱の挑戦を受けた事実を目の当たりにし、私もいたたまれなかった。この広告は多くの日本人の率直な気持ちだったと思う。

「いま私たちはあの時のように」

「We are with you」と声をそろえて言えぬだろうか。

小泉首相の「もちろん」という人もいられる。だが、多くの同盟国の反対を押し切ってイラク戦争を始め、いまだ迷路的出口を見つげられないブッシュのアメリカは、多くの人の心から離れてしまった。

アメリカとは一緒にいたい。それなのにアメリカが一人でどんどん走って行ってしまった。これでは「with you」と、言おうにも言えないではないか。そんな切なさを感じている人も多からう。

「We are with you」と声をそろえて言えぬだろうか。

小泉首相の「もちろん」という人もいられる。だが、多くの同盟国の反対を押し切ってイラク戦争を始め、いまだ迷路的出口を見つげられないブッシュのアメリカは、多くの人の心から離れてしまった。

アメリカとは一緒にいたい。それなのにアメリカが一人でどんどん走って行ってしまった。これでは「with you」と、言おうにも言えないではないか。そんな切なさを感じている人も多からう。